令和２・３・４年度
学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業

研究主題

共生社会・共生地域をつくる児童・生徒の育成
～真に「共に生きるまち」を目指して～

東京都立七生特別支援学校
日野市立日野第三中学校
日野市立夢が丘小学校
日野市立七生緑小学校
日野市立教育センター日野市わかば教室

もくじ

日野市教育委員会　教育長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

１　研究概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２　実践事例

（１）市立学校と七生特別支援学校との交流及び共同学習

七生緑小学校　　　第１学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

夢が丘小学校　　　第２学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

七生緑小学校　　　第３学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

夢が丘小学校　　　第４学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

七生緑小学校　　　第５学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

夢が丘小学校　　　第６学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

日野第三中学校　　第１学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

日野第三中学校　　第２学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

日野第三中学校　　第３学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

七生特別支援学校　小学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

七生特別支援学校　中学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

（２）各校における地域の学校・施設等との交流及び共同学習

夢が丘小学校　　　第１学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

七生緑小学校　　　第２学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

夢が丘小学校　　　第３学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

七生緑小学校　　　第４学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

夢が丘小学校　　　第５学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

七生緑小学校　　　第６学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

わかば教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

（３）その他の学校におけるインクルージョン連携事業

オンラインあいさつ運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

学級紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

アート交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

とびだせアート交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

日野市としての取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

３　児童・生徒の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

４　成果とこれから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４

挨　　拶

日野市教育委員会　　教育長　堀川　拓郎

日野市教育委員会は、令和２年度から４年度までの３年間、東京都教育委員会の指定を受け「学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業」を推進してまいりました。多くの皆様のご協力を得ながら、その成果をここにまとめられますことに感謝申し上げます。

本研究の中心となった、日野第三中学校、夢が丘小学校、七生緑小学校と都立七生特別支援学校との交流は、平成２年まで遡ります。交流開始当初は、それぞれの学校で行った学習の成果を互いに「見せ合う」ことが主な活動内容でした。しかし、交流が進むにつれ、次第に「共に学び合う」交流へと変わり、「共に学び、喜び合う」子供たちの姿が見られるようになりました。

平成３１年に策定した第３次日野市学校教育基本構想では、「すべての“いのち”がよろこびあるふれる未来をつくっていく力」の育成を理念として掲げています。この構想に基づき、「みんなが認め合い、それぞれの良さを最大限に発揮し合う」ことや、「自分や他人のよさを見つけ、認め、世界を広げていく」ことを大切にし、各学校において教育活動を進めています。また、同年度７月には、日野市は都内初のＳＤＧｓ未来都市に選定され、「質の高い教育をみんなに」を含め、誰一人取り残さない、持続可能なまちづくりを推進しています。

これらの理念を踏まえ、交流及び共同学習の基盤を築きつつあった市立学校３校と都立七生特別支援学校は、市立教育センター日野市わかば教室を加えた４校１教室という新たな形で、令和２年度から本研究に取り組みました。本研究では、共生社会・共生地域を子供たち自らがつくっていくことを主題とし、研究を進めました。コロナ禍にあっても、１人１台端末を活用したオンラインでの交流を行い、また年間を通じ、様々な教科等において計画的・継続的に共に学ぶ活動を行う中で、子供たちは、公園や地域のイベントで会ったときに挨拶を交わすようになり、家庭や学校で、嬉しそうに話すようになりました。

共生社会の担い手を育てていくにあたり、本研究で目指した子供たちの姿を持続可能な取組として市内全体に定着させるためには、４校１教室の実践のように、学校間や校内・地域での交流及び共同学習を一度限りのものとするのではなく、日常の、当たり前の教育活動の一環として継続的に行っていくことが重要です。日野市教育委員会は、本研究の成果を市内全校で共有し、各校・地域ごとに発展・深化させられるよう、引き続き支援してまいります。

結びに、授業研究や研修会等でご指導をいただきました講師の先生方、各校において熱心に研究に取り組まれました各校管理職・関係者の方々に対し、改めて御礼を申し上げ、挨拶といたします。

はじめに

日野市では、教育委員会研究奨励校として、平成２９年度からの３年間、日野市の七生丘陵に位置する日野第三中学校区の日野第三中学校、夢が丘小学校、七生緑小学校、と東京都立七生特別支援学校の４校が「共に地域に生きる～交流及び共同学習を通して～」を研究主題とし、連携した研究を進めてきました。

令和２年度からは、東京都教育委員会の「学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業」として、４校に日野市立教育センター日野市わかば教室を加え、４校１教室が連携し、校内、学校間、そして地域とのかかわりを深めながら実践研究を推進しています。

本事業で目指した「共生社会・共生地域をつくる児童・生徒の育成」は、事業の目的である「障害のあるなしにかかわらず、互いに人格と個性を尊重し合う共生社会を構築する」「障害のあるなしにかかわらず、子供たちがすべての“いのち”がよろこびあふれる活動を自らの手と、そして仲間たちとともに創造する」「同じ地域にある学校として、地域で会ったとき挨拶や会話が自然にできる顔がつながる関係を築く」「子供たちが地域を動かし、真に“共に生きるまち”を創造していく」ことです。

実践に当たっては、学校におけるインクルージョンの視点を、教育活動にどう取り入れるのか、同じ学校・学級ではない友達などへの相手意識を児童・生徒にどうもたせるのか等、課題は多く、試行錯誤の連続でした。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、各校の教育活動を変更せざるを得ない場面が多数あり、都立七生特別支援学校を含めた他校や、地域の施設等との交流及び共同学習では、従来のような対面での直接交流が限られることになりました。

しかし、４校１教室の教職員及び児童・生徒は、積み重ねてきた交流の歩みを止めないため、対話を重ねることで、交流を継続できる方法を見いだし、実践することができました。その一つの手段であるオンライン交流は、単なる直接交流の代替手段という位置付けではなく、これからの時代の新たな交流の機会を創出する重要なものであるということに、気付くこともできました。

そして、４校１教室が連携し、学習を進めてきたことで、地域に愛着をもち、地域のために役立ちたいと活動する児童・生徒が増えてきました。また、教職員の授業改善にもつながり、教育活動の充実を図ることができました。

今後は、学校におけるインクルージョンの考え方が教育活動という枠組みだけでなく、児童・生徒の生活の一部として浸透するよう、児童・生徒が暮らす地域に根差した実践を推進していくことが、日野市立学校の新たな課題であると感じています。

事業を進めるに当たり、ご指導を賜りました多くの皆様、地域の皆様、日野市教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。これまでのご支援に感謝するとともに、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

東京都立七生特別支援学校　校長　黒澤　一慶
日野市立日野第三中学校　校長　川島　清美
日野市立夢が丘小学校　校長　舘　敏晴
日野市立七生緑小学校　校長　大和田　邦彦
日野市教育委員会教育部参事
兼日野市立教育センター　所長　長﨑　将幸

1

研究概要

研究概要

研究主題
共生社会・共生地域をつくる児童・生徒の育成
～真に「共に生きるまち」を目指して～

１　目的

・障害のあるなしにかかわらず、互いに人格と個性を尊重し合う共生社会を構築する。
・障害のあるなしにかかわらず、子供たちがすべての“いのち”がよろこびあふれる活動を自らの手と、そして仲間たちとともに創造する。
・同じ地域にある学校として、地域で会ったとき挨拶や会話が自然にできる顔がつながる関係を築く。
・子供たちが地域を動かし、真に「共に生きるまち」を創造していく。

２　背景

日野第三中学校区の日野第三中学校、夢が丘小学校、七生緑小学校３校と都立七生特別支援学校との交流は平成２年度から行っている。平成２８年度に、都立七生特別支援学校から、「同じ地域にある学校として、地域で会ったときに、互いに挨拶できる関係をつくりたい。」という話があり、翌平成２９年度から、交流の回数を増やし、単なるイベントで終わることのない交流活動が行われるようになった。

その成果として、都立七生特別支援学校の児童と夢が丘小学校の児童が公園で一緒に遊んでいる姿や保護者同士が地域で自然に挨拶を交わし、会話をする姿が見られるなど、まさにインクルーシブな社会がつくり上げられつつあった。

３　主題設定の理由

令和２年度から、これまでの研究を基盤にさらなる交流及び共同学習を進めたいと願い、４校に日野市わかば教室を加えた４校１教室で本事業をスタートさせた。

日野市では、日野市総合教育大綱を基とした、第３次日野市学校教育基本構想「未来に向けた学びと育ちの基本構想」において、「すべての“いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく力」を育むことを目指している。この理念の下、近年は日野市立学校と都立特別支援学校との学校間交流だけではなく、小学校同士、小学校と中学校、小・中学校と日野市わかば教室、などの交流活動も市内に広がっている。

これらの交流を通して、児童・生徒は、「同じ地域の他校等に所属する児童・生徒も、自分たちと同様に学び、生活している」ことを意識するようになる。そして、次第に「挨拶を交わせる関係」を築くことができるようになり、さらに交流を深めることで、「地域で共に生きること」を考え、実践できるようになると考える。

このことを踏まえ、本研究では、「障害のあるなしにかかわらず、地域に生きるすべての人々が、自己と他者の理解を深め、一人一人が、かけがえのない存在であることを認め合い、多様な個性を尊重し、共に暮らす新しい社会をつくっていく力を育成していくこと」をねらいとし、研究主題を「共生社会・共生地域をつくる児童・生徒の育成～真に『共に生きるまち』を目指して～」と設定した。

４　経過

	実　践　概　要
令和２年度	○学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業を開始 ○タブレット端末（※）を活用したオンライン交流を実施 ＜都立七生特別支援学校と交流した、日野市立学校３校の実施学年＞ ・日野第三中学校　１・２・３年 ・夢が丘小学校　２・４・６年　・七生緑小学校　１・３・５年
令和３年度	○直接交流及び一人１台の学習者用端末等を活用したオンライン交流を実施 ○オンラインあいさつ運動開始（毎週１回　木曜日実施）（７月～） ○クラス紹介の動画を作成し、各校にて動画を視聴（１０月） ○これまでの研究成果をまとめた動画を作成し、市内に公開（６月～１月）
令和4年1月20日	○日野市立全小・中学校対象「学校におけるインクルージョンに関する研修会」を実施 講師：東北福祉大学 教育学部　教育学科初等教育専攻　教授　大西 孝志　先生 講師：筑波大学附属小学校　元副校長　田中 博史先生
令和４年度	○直接交流及び一人１台の学習者用端末等を活用したオンラインを実施（７月～） ○オンラインあいさつ運動開始（毎週１回　木曜日実施）（５月～） ○クラス紹介の動画を作成・各校にて動画を視聴　等（７月）
令和4年7月29日	○日野市立全小・中学校対象「特別支援教育研修会（インクルージョン・専門編）」を実施 講師：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター 上席総括研究員（兼）センター長　笹森　洋樹　先生
令和5年1月20日	○学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業の研究発表会を実施 講師：東北福祉大学 教育学部 教育学科初等教育専攻　教授　大西 孝志　先生 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター 上席総括研究員（兼）センター長　久保山 茂樹　先生

※令和２年度のタブレット端末は、学校独自で所有していた端末を使用した。

５　主な内容

（１）日常的な交流（交流の下地づくり）

各校の児童・生徒が、離れた場所にいながらも、身近な存在として互いを意識し合える環境づくりを目的とし、「オンラインあいさつ運動」を継続的に実施した。

（２）事前学習等（交流の下地づくり）

児童・生徒に交流の見通しをもたせるとともに、交流への意欲の向上を図ることを目的とし、事前学習を次のとおり実施した。

・七生特別支援学校の教員が、市立小学校の交流を行う学級に出向き、出前授業を行う。授業では、映像を見せながら障害のある子供の学びの様子について話をした。

・相手校を訪問する交流当日、相手校を訪れた児童・生徒は先に学校見学を行った。

（３）対面での交流及び共同学習

年度始めに立てた計画に基づき、対面での交流を基本とした交流及び共同学習を実施した。

（４）地域への発信

本事業に関しての理解啓発を目的とし、近隣にある駅の構内に、授業等で作成した作品を展示した。

（５）研修の実施による教員の専門性、指導力の向上

交流及び共同学習の在り方などについての理解を深めるとともに、授業改善を推進することを目的とし、教職員を対象とした学校におけるインクルージョンに関する研修を行った。

研究構想図

日野市総合教育大綱
「ひのっ子を包み込む学びと育ちの環境が地域から世界へ羽ばたく日野人を育む」

第3次日野市学校教育基本構想
「すべての“いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく力」

研究主題
共生社会・共生地域をつくる児童・生徒の育成
～真に「共に生きるまち」を目指して～

研究仮説
障害のあるなしにかかわらず、地域に生きるすべての人々が、自己と他者の理解を深め、一人一人がかけがえのない存在であることを認め合い、多様な個性を尊重することで、共に暮らす新しい社会を創っていくことができるであろう。

七生特別支援学校との交流及び共同学習

○直接交流
時間と場所、活動を共有することにより、生じる課題を解決したり、喜びを分かち合ったりすることができる。

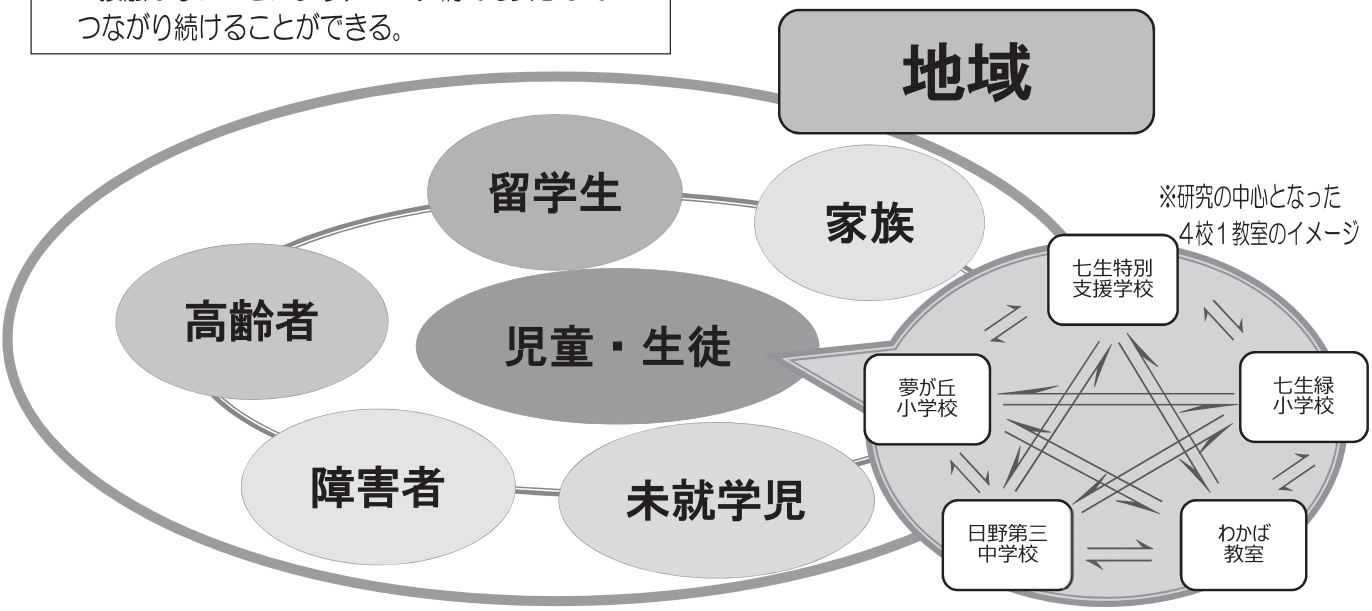
○作品交流
お互いの学校に作品を展示することにより、自己と他者の表現を深め合うとともに、つながりを感じることができる。

○オンライン交流
接触しないことにより、コロナ禍でも安心してつながり続けることができる。

地域との交流及び共同学習

○小中学校間での交流
○奉仕活動
○福祉施設との交流
○高齢者との交流
○幼稚園・保育園との交流
○留学生との交流

校内における通常の学級と特別支援学級との各教科等での交流及び共同学習



2

実践事例

（１）
市立学校と七生特別支援学校との交流及び共同学習

連携する際に共通理解しておくこと

実施年度の前年度	○各校で交流及び共同学習を教育課程上位置付け、活動のねらいを明確にする。 ○交流を行う上での配慮事項等について学校間で確認する。（授業時程、オンライン環境、感染症対策等を含む）
実施年度当初	○各校交流担当者を学年で１名ずつ決める。 ○交流担当者間で、顔合わせ及び年間指導計画について確認する。 ○中学校区等、地域として交流を行う場合は、各校関係者を集めた交流会を行い、顔合わせや方針の確認を行う。 ※複数回の交流を行う場合は、打合せや当日の進行役となる学校を、輪番制にするか検討する。 ○直接交流ができない場合に備え、オンラインでの交流方法を確認する。
交流前	○交流担当者間で、互いの学年・学級や児童・生徒の状況について情報共有する。また、児童・生徒の障害特性等について、互いの教員が十分理解できるよう、情報交換を密に行う。 ○ねらいに基づいた実施案を作成し、各校の教員、児童・生徒との間で共通理解を図る。特に、活動内容や役割分担等についての事前学習（※実践事例参照）を行い、児童・生徒が活動への見通しをもてるようにする。 ○通常の学級の児童・生徒に対し、障害についての知識や具体的な協力の仕方を身に付けられるよう、発達段階に応じた指導を行う。 ※交流担当者間で交流時の写真の活用方法、範囲について確認し、児童・生徒の肖像権への配慮を十分に行う。
交流当日	○児童・生徒が主体的に活動する時間を十分確保し、一人一人の学びが円滑に進むよう、教員は安全確保をしながらサポート役に回る。
交流後	○交流の感想を手紙やビデオレター等で交流するなど、交流で得た気付きや学びを相手に伝える機会を設ける。 ○ねらいに沿った振り返りを行い、その後の障害理解につながる丁寧な指導を継続する。 ○交流担当者間で活動のねらい・内容等に対する評価をし、改善につなげる。 ○次年度の交流担当者が円滑に活動の進行を行うことができるよう、交流担当者間で、引継ぎ資料を作成する。 ○交流担当者間で次年度の交流日を決定する。

実践事例（９月・１２月実施）　七生緑小学校　第１学年
七生特別支援学校小学部　第１学年

取組・活動名

「なかよくなろう」（生活科）

実際の取組

① 活動のねらい

・小学校におけるインクルージョンのスタートとして、よりよい交流を行おうとしている。
・自己紹介やグループ紹介をし合うことで、同じ地域にいる同学年の児童と交流を深めることができる。

② 本取組・活動の内容

・七生特別支援学校の先生に出前授業をしてもらい、同じ地域にある学校を知った。
・同じ学年の子たちと会えることを知り、交流で何をしたいか考えることにした。
・互いに自己紹介やグループ紹介、できるようになった活動の紹介をし合い、同じ地域にいる同学年の児童と交流した。

【出前授業】
七生特別支援学校の先生がスライドやクイズを交えて七生特別支援学校について教えてくれたことで、学校の場所や各教室の様子、学習内容など様々なことに興味をもった。「小さな世界」を手話とともに教わって踊ったことで、学校に行って会って一緒に踊りたいという思いをもった。

【七生特別支援学校での交流】
七生特別支援学校を徒歩で訪れ、学校のガラス窓越しに互いのクラス紹介・自己紹介、運動会のダンス披露等を行った。相手に自分たちのことを知ってもらいたいという気持ちが、大きな声として表れていた。帰校後は「今度はみんなで遊びたい。」「また交流したい。」などの声が聞かれた。

③ 教科等との関連

・生活科「がっこうだいすき」「じぶんでできるよ」
・国語科「てがみでしらせよう」「ともだちのこと、しらせよう」
・体育科「リズム遊び」
・道徳科「こころはっぱ」

取組・活動を振り返って

・出前授業で七生特別支援学校の先生から話を聞き、交流相手に興味がもてるよい活動だった。
・同じ学年が交流相手だったので、相手意識が高まり、意欲的に関わることができた。
・２回の交流を行ったことで、親しみをもって交流できたので、今後も継続的に実施していく。

実践事例（１２月実施）　　**夢が丘小学校　第２学年**
七生特別支援学校小学部　第２学年

取組・活動名

「もっとなかよし　町たんけん」（生活科）

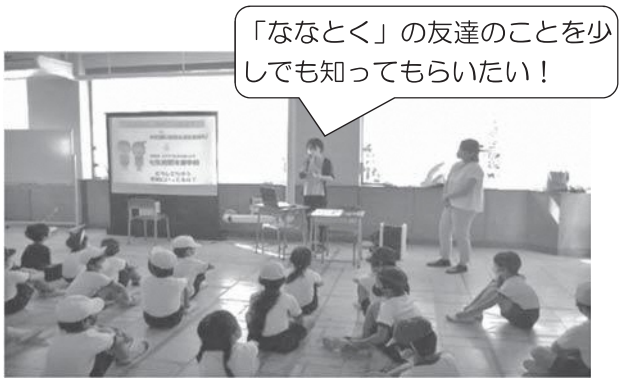
実際の取組

① 活動のねらい

・小学校におけるインクルージョンのスタートとして、よりよい交流を行おうとしている。
・同じ地域で生活している友達を意識して、自分の思いを伝えることができる。

② 本取組・活動の内容

・町探検に出て、お店や郵便局などを見る中で、七生特別支援学校を見付けた。
・七生特別支援学校の先生による出前授業で、七生特別支援学校のことについて学んだ。
・自分たちの町のお気に入りの場所を紹介して仲良くなろうという思いをもった。



【七生特別支援学校による出前授業】
事前学習として、七生特別支援学校の先生に夢が丘小学校に来てもらい、児童の様子について説明を聞いた。児童は、その後の生活科の町探検で七生特別支援学校を発見した。

【動画交流】
直接交流が行えなかったため、動画での交流を行った。初めて知る七生特別支援学校の友達の様子を、児童は真剣な表情で見ていた。視聴後、「直接会って関わりたい。」などの声が多く上がった。

③ 教科等との関連

・生活科「どきどき　わくわく　町たんけん」「はるだ　今日から二年生」
・国語科「みんなでつかう　まちのしせつ」「こんなもの　見つけたよ」
・道徳科「ひかり小学校のじまんはね」

取組・活動を振り返って

・直接交流はできなかったが、一人１台の学習者用端末を活用し、七生特別支援学校の児童に町の様子を紹介することができた。紹介動画では、「今度みんなで会おう。」という言葉が児童から自発的に出るなど、直接交流することを楽しみにする様子が見られた。
・「ななとく」の存在が児童の中で、身近なものになってきていると感じた。

実践事例（１０月・１月実施）　七生緑小学校　第３学年
七生特別支援学校小学部　第３学年

取組・活動名

「ひさしぶりだね、元気だった？」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動のねらい

・学校におけるインクルージョンのよさを感じ、交流先の友達と意欲的に関わろうとしている。
・互いの学校のことを教え合い、親睦を深め、同じ地域で暮らす仲間意識をもつことができる。

② 本取組・活動の内容

・七生緑小学校で「好きなもの紹介」など、互いのことを知るための交流を行った。
・七生特別支援学校の児童に通常の学級がある小学校を知ってもらった。
・２回目の交流ではオンラインで一緒に同じ曲を歌ったり、校歌や踊りを披露し合ったりし、同じ地域にいる同学年の児童と交流する楽しさを味わった。

【七生緑小学校での交流】
七生緑小学校校庭にて、挨拶をした後、「好きなもの紹介」を行った。食べ物の絵を見せ、その食べ物が好きな人は頭の上で〇を作り、交流した。
「好きなもの、同じだとうれしいね。」「みんな、それぞれ好きなものがあっていいね。」という声が多く聞こえた。別れ際には、笑顔で手を振り、見送った。

【オンラインでの交流】
一人１台の学習者用端末を活用し、交流した。２校合同での「小さな世界」（曲に合わせての手話）、互いの「校歌」斉唱、出し物披露をした。七生緑小学校からは「どろぼうロックンロール」の踊りを披露した。
「同じ曲でもそれぞれ違うところがあって面白いね。」「コロナでも交流できてよかった。」という感想が聞かれた。

③ 教科等との関連

・国語科　「山小屋で三日間すごすなら」
・総合的な学習の時間「ふれあおう　わかりあおう」
・道徳科　「あいさつをすると」

取組・活動を振り返って

・１回目は、第１学年以来となる直接交流を実施することができた。実際に会えたことに喜びを感じながら、「好きなもの紹介」等を楽しむことができ、さらに交流を深めることができた。
・２回目は、オンライン交流となったが、お互いの雰囲気を十分に感じ取ることができた。歌や出し物に大きな拍手を送り合うなど、楽しい時間を共有できたことで、同じ地域にいる同学年という仲間意識が芽生え、会ったときに互いに挨拶や会話ができる関係づくりにつながった。

実践事例（５月実施）	夢が丘小学校	第４学年
	七生緑小学校	第４学年
	七生特別支援学校小学部	第４学年

取組・活動名

「七生地域にある学校と交流しよう」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動のねらい

・学校におけるインクルージョンのよさを感じ、交流先の友達と意欲的に関わろうとしている。
・地域にある学校への理解を深め、仲間意識をもつことができる。

② 本取組・活動の内容

・七生地域の学校と交流をして、互いの学校の特徴を知った。
・オンライン交流では、クラス紹介やゲームをして、親睦を図った。

【絵しりとり】
「互いのことを知るためには一緒に遊ぶのが一番良い。」という児童の考えを基に、オンラインでもできる遊びを話し合って考え、実施した。

【学級紹介・クイズ】
クイズなどの遊びを通して、他校の様子が分かり、「学校が違っても、自分たちとそんなに違わないな。」ということに気付いた。もっと知り合うにはどうすればよいかを考え、次の活動に生かしていこうという意識が芽生えた。

③ 教科等との関連

・総合的な学習の時間「様々な人とともに生きる」
・道徳科　　「となりのせき」「うめのきむらも四人兄弟」

取組・活動を振り返って

・「隣の学校の友達のことをもっと知ろう」という目的をもって取り組むことができた。
・オンライン交流だったが、互いの名前や趣味などを伝え合うなど、交流を進めることができた。
・交流を通して、児童に「同じ地域に住む友達と、もっと仲良くなりたい。」という仲間意識を育むことができた。

実践事例（１０月・２月実施）　七生緑小学校　第５学年
七生特別支援学校小学部　第５学年

※令和３年度の実践事例

取組・活動名

「ふれあおう　わかりあおう（オンライン交流）」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動のねらい

・小学校におけるインクルージョンの最後の交流として、児童が中心となって主体的に活動しようとしている。
・互いの成長を認め合い、２年前までの交流を生かして、オンラインで顔を見合って挨拶したり、手話を使って歌を歌ったりして楽しく交流することができる。

② 本取組・活動の内容

・七生特別支援学校の児童とオンラインでクイズを出し合ったり、互いの活動を見せ合ったりして交流した。

【オンラインでの交流】

画面越しに手を振って挨拶したり、手話をしながら「小さな世界」を一緒に歌ったりした。七生特別支援学校の児童から手を振るなどの反応があると、七生緑小学校の児童はうれしそうにしていた。

１回目の交流では、七生特別支援学校からのダンスやクイズ、七生緑小学校から「間を通ったものは何でしょう？」クイズ、という互いの出し物を楽しむことができた。

２回目の交流を計画する際には、七生緑小学校からは運動会の表現「エイサー」を披露することや、それにちなんだクイズを出題することを決めた。どのような問題だったら相手に楽しんでもらえるのかを、一生懸命考えていた。

③ 教科等との関連

・総合的な学習の時間「ふれあおう　わかりあおう」
・保健体育科　「表現運動（エイサー）」
・道徳科　「ノンステップバスでのできごと」

取組・活動を振り返って

・直接交流ができなかったが、児童はとても意欲的に楽しみながら活動した。特に七生特別支援学校の司会の児童が「七生緑小学校の〇〇さん」と名前を呼んだ時には、呼ばれた児童がうれしそうな表情を浮かべるなど、２回の交流を通して、さらに関係性が深まったと感じた。
・児童は、オンラインだからこその工夫や楽しみ方について、主体的に考えることができた。

実践事例（７月実施）　　**七生緑小学校　第５学年**
七生特別支援学校小学部　第５学年

※令和４年度の実践事例

取組・活動名

「ふれあおう　わかりあおう（直接交流）」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動のねらい

・小学校におけるインクルージョンの最後の交流として、児童が中心となって主体的に活動しようとしている。
・同じ地域で学ぶ他校の友達について、より深く理解しようとしている。

② 本取組・活動の内容

・「みんなで楽しくジンギスカンを踊ること」をめあてに、交流会の準備に取り組んだ。
・学校紹介動画や、七生特別支援学校の先生による出前授業の内容を基に交流の仕方を考えた。
・当日は、自分たちで考案した「ジンギスカン」をみんなで踊った。

【七生特別支援学校での交流会】
校内見学では事前に見学の視点が示されたため、目的意識をもって見学することができた。また、国語科や道徳科で学習してきた内容と結び付け、より理解を深めることができた。
交流会では、踊りの説明がなかなか伝わらずに悪戦苦闘していたが、音楽に合わせて相手が楽しそうに体を動かす姿を見て安堵の表情を浮かべた。
振り返りでは「一緒にダンスを楽しんだことで、距離の縮まりを感じることができた。」などの感想が上がった。

③ 教科等との関連

・国語科　「みんなが過ごしやすい町へ」
・総合的な学習の時間「ふれあおう　わかりあおう」
・道徳科　「ノンステップバスでのできごと」

取組・活動を振り返って

・事前学習では、どのように踊り方を伝えればよいか悩んでいたが、七生特別支援学校の先生からの言葉をヒントに、「絵や文字で伝えよう。」と考えを広げることができた。当日は上手くいかないところもあったが、次回に生かそうと前向きに捉え直すなど、児童にとってよい経験となった。
・校内見学では、自校との相違点などに目を向けながら見学したことで、様々な角度から七生特別支援学校第５学年について知ることができた。アート交流として自分たちの図画工作科の作品が飾られていたことも、七生特別支援学校をより身近に感じるきっかけとなった。

実践事例（９月実施）　　**夢が丘小学校　第６学年**
七生特別支援学校小学部　第６学年

取組・活動名

「私たちにできることを考えよう」（国語科）
「地域のためにできることを考えよう」（総合的な学習の時間）

実際の取組

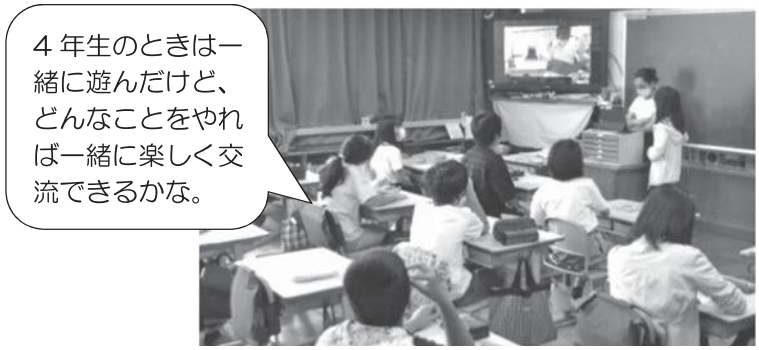
① 活動のねらい

・小学校におけるインクルージョンの最後の交流として、児童が中心となって主体的に活動しようとしている。
・自分と他者との違いを考慮しながら、共に楽しむための工夫を見いだし行動することができる。

② 本取組・活動の内容

・一緒に楽しめる活動内容にしようと、グループごとにめあてをもって話し合った。
・オンライン交流で、互いに考えた活動内容を披露し合って楽しんだ。

【交流経験を基にした話合い】
七生特別支援学校とは第２・４学年の時に交流の経験がある。その経験を基に、相手の個性を改めて理解した上で、一緒に楽しめる交流の内容について検討できるようにした。



【動画交流】
作成した動画を互いに送り合う動画交流を行った。夢が丘小学校からは、身の回りの文房具等をクイズにして出題し、七生特別支援学校からは、運動会の動画や学年で製作した絵画の紹介を行った。

③ 教科等との関連

・国語科　「私たちにできること」
・総合的な学習の時間「わたしたちの町をどんな町にしたいか考えよう」
・道徳科　「みんないっしょだよ」

取組・活動を振り返って

・児童は、相手の立場を考えて計画及び行動をしていくことの大切さを学んだ。
・互いの思いを共有することで、相手のよさを認め合えるような関係づくりが進んだ。

実践事例（１０月実施）　　**日野第三中学校　第１学年**
七生特別支援学校中学部　第１学年

取組・活動名

互いのことを知ろう（特別活動）

実際の取組

① 活動のねらい

・顔合わせや簡単な活動を共にすることで、中学校３年間での学校間交流についての見通しをもつことができる。
・他者を知り、相互理解を深めようとする意欲を高める。

② 本取組・活動の内容

・両校の第１学年全員による、オンラインでの交流を行った。
・日野第三中学校からは、司会進行役の代表委員が作成した「三中での一日」という動画を公開し、それに関するクイズを出題した。
・七生特別支援学校からは、自校を紹介する動画を公開し、それに関する質疑応答を行った。
・最後は、日野第三中学校から合唱祭で歌う予定の合唱曲を披露し、交流を終了した。

【オンラインでの交流】

七生特別支援学校の生徒は、日野第三中学校からのクイズに対し、声を上げながら楽しそうに参加をしていた。日野第三中学校の生徒は、七生特別支援学校からの紹介動画に出てきた「陶芸」や「調理」の紹介に対し、「すごい！」「いいな～、おいしそう。」といった反応をしていた。

日野第三中学校の生徒は、七生特別支援学校の生徒からの「交流が楽しかった。」という感想をもらい、喜ぶ様子を見せた。交流後のアンケートでは、「七特の皆さんがとても積極的だなと思いました。」「直接話をしたい。」「一緒に授業を受けたい。」など様々な感想が上がった。

③ 教科等との関連

・特別活動「互いのよさを認め合う」
・道徳科　「相手のよさを認め合う」

取組・活動を振り返って

・中学校３年間を通しての交流第１回として、その土台作りを行うことができた。オンラインでの交流だったが、動画で互いの様子を紹介し合う取組やクイズを入れたことは、生徒の交流する意欲を高めることにつながった。

実践事例（６月実施）　　**日野第三中学校　第２学年**
七生特別支援学校中学部　第２学年

取組・活動名

互いについて理解を深めよう（特別活動）

実際の取組

① 活動のねらい

・学校間交流を行っている自校と他校について、学習や生活、生徒の様子などの共通点や相違点を知り、相互理解を進めることができる。

② 本取組・活動の内容

・事前学習として、両校それぞれが撮影し編集した動画を交換し、視聴し合った。
・動画視聴を基に質問を考え、オンラインでの交流に臨んだ。

【事前学習（動画交流）の様子】

日野第三中学校は部活動の紹介、七生特別支援学校は新校舎の紹介動画を作成した。日野第三中学校では、生徒が動画作成班となり、編集等も行った。

視聴を通して互いの日常の様子を知り、学校や生徒について理解を深めることができた。

視聴後には次のような質問が出た。

【七特から】「自然科学部では、どのような野菜を育てているのですか。」「ボランティア部」はどのような活動をしていますか。

【三中から】「新校舎には色別の階段がいくつありますか。」「大きな玄関ホールで体育を行うことがあるそうですが、校庭では体育の授業は行わないのですか。」

③ 教科等との関連

・特別活動「互いについて理解を深め協力する」
・道徳科　「相手のよさを認め合う」「広い心で相手を受け止める」

取組・活動を振り返って

・学級単位で交流を行ったため、参加している生徒の顔が大きくはっきり映し出され、個人を認識しやすくなった。気軽に質問できることや、反応がよく分かることなどの利点もあり、学年単位で行うよりも、全体的に盛り上がった。
・機器のトラブルが発生したが、次回に備えて対応策等を相手校とも共有をしておく。

実践事例（１２月実施）　　**日野第三中学校　第３学年**
七生特別支援学校中学部　第３学年

取組・活動名

互いの成長を認め合おう（特別活動）

実際の取組

① 活動のねらい

・小・中学校９年間の最後の交流として、互いにやりたいことを提案し合うなど、主体的に交流を計画し、実行することができる。
・これまでの交流経験を生かし、互いの成長を認め合いながら、さらに内容を発展した交流内容を考えることができる。

② 本取組・活動の内容

・事前に、両校代表者によるオンラインでの顔合わせを行った。
・オンライン交流ならではの工夫や内容を考え、グループに分かれて出し物や、レクリエーションを行った。

１分間に鉛筆を何本立てられるかのチャレンジです。

レクリエーションでは、ジェスチャーしりとり、具体物しりとり、絵しりとりを行いました。

【グループごとのオンライン交流】
手話付きの歌やダンス、１分間ギネスチャレンジを披露し合ったり、レクリエーションで楽しい時間を共有したりすることができた。
生徒からは、「笑いが絶えなかった。」「オンラインだったけれども、人とのつながりを感じることができた。」「いつか直接会って、一緒に地域のためになることをしたり、団地のイベントでコラボしたりしてみたい。」などの感想が上がり、交流の深まりを感じることができた。

③ 教科等との関連

特別活動「互いに協力し共生する社会を目指す」
道徳科　「相手のよさを認め合う」「望ましい地域社会」

取組・活動を振り返って

・少人数グループでの交流だったため、相手の顔をよく見ることができた。また、全員が出し物やレクリエーションに参加することができ、その様子を互いに確認できた。
・交流を自分たちで企画し実践するなど、生徒たちの主体性が発揮される機会となった。
・あらかじめ入念に計画や準備をした上で行う「交流」だけでなく、日常的に自然に関わり合う「交流」についても、できる機会を増やしていきたい。

実践事例　　七生特別支援学校　小学部

ねらい（学校全体）

① 地域にある学校間で交流の機会をもち、互いのことを知り、親睦を深める。
②「同じ地域で暮らす仲間」としての意識をもち、多様な価値観の共有を目指す。

＜留意点＞児童・生徒の主体的な活動や、双方の児童が関わり合いのある、共同的な活動を中心に取り入れる。
＜教育課程上の位置付け＞小学部…生活単元学習、中学部…総合的な学習の時間

小学部１年生（七生緑小学校）

① 活動の内容　・ガラス越しでの対面交流…ダンス発表、学級紹介
・図画工作科の作品交流

② 児童の様子

本校でのガラス越しでの対面交流であったが、距離は大変近くに感じられ、七生緑小学校児童の様子をしっかり注目している様子がうかがえた。特に大勢のダンスや声を合わせた発表が新鮮で、本校児童はみんなよく見ていた。帰り際には、姿が見えなくなるまで手を振り、見送っていた。

小学部２年生（夢が丘小学校）

① 活動の内容　・夢が丘小学校からの学校紹介動画を視聴　・お礼の手紙を書く
・図画工作科の作品交流

② 児童の様子

学校紹介動画の視聴を通して、夢が丘小学校の校内の様子や友達に関心をもち、「会いたい。」「行きたいな。」という声が聞かれた。また、「もう１回ビデオを見たい。」との声もあり、繰り返し視聴した。飼育している動物や窓から見える景色など、細かい部分にも関心を寄せていた。

小学部３年生（七生緑小学校）

① 活動の内容　・校庭での対面交流…○×クイズ等
・オンライン交流…歌、ダンス

② 児童の様子

七生緑小学校が作成したイラストのクイズは、本校児童にも分かりやすく、手を大きく挙げて相手に答えを返すなど、みんなが楽しんでいた。本校からのクイズも、事前学習では期待感をもって考えている様子が見受けられた。顔を合わせる経験ができたことにより、オンライン交流では、「画面の向こう側の友達」に意識を向けることができた。

小学部４年生（夢が丘小学校）

① 活動の内容

・校庭での対面交流…歌、プレゼント交換

・オンライン交流…歌　・図画工作科の作品交流

② 児童の様子

久しぶりの交流だったが、これまでも校外歩行で度々夢が丘小学校付近を歩いていたこともあり、親近感をもって参加していた。一緒にサインを使った歌を表現でき、楽しくのびのびと発表し合えた。

オンライン交流にもスムーズに参加でき、夢が丘小学校のみんなに再び会えたことを喜んでいた。

みんなで一緒に ハンドサイン

小学部５年生（七生緑小学校）

① 活動の内容

オンライン交流（１回目、２回目）…ダンス発表、クイズ等

② 児童の様子

通信状況に左右されてしまう部分もあったが、オンラインでのやり取りにも、徐々に慣れてきた様子が見受けられた。

七生緑小学校からのクイズの出題は、話すペースや視覚支援の工夫もあり、本校児童にも分かりやすく、楽しく参加することができた。

画面の向こうに 友達たくさん

小学部６年生（夢が丘小学校）

① 活動の内容

オンライン交流（１回目、２回目）…ダンス発表、クイズ等

② 児童の様子

事前学習では、隔年で交流している夢が丘小学校との２年前の交流を思い出し、友達に会えることを大変心待ちにしていた。

１回目のオンライン交流は断続的な通信状況により、やり取りのタイミングに戸惑う様子もあったが、２回目は改善し、クイズ等の応答を楽しむことができた。

クイズに張り切って答えます

実践事例　　七生特別支援学校　中学部

中学部１年生（日野第三中学校）

① 活動の内容

オンライン交流…日野第三中学校の学校紹介動画を視聴、クイズ、リモート合唱の鑑賞

② 生徒の様子

交流を心待ちにし、オンライン接続が始まると各々手を振ったり、声を出したりして楽しんでいた。日野第三中学校からの合唱曲は普段馴染みのない曲だったが、みんな、熱心に耳を傾けていた。

交流時の司会原稿は、生徒もアイデアを出して考えた。当日は、緊張しながらも、やり取りのタイミングを図りながら進行することができた。

中学部２年生（日野第三中学校）

① 活動の内容

オンライン交流…日野第三中学校の部活動紹介動画の視聴と部活動クイズ、本校新校舎紹介・音楽の授業紹介の動画紹介とクイズ、質問タイム

② 生徒の様子

交流の事前には、生徒自身も「新校舎案内」の動画作成に取り組んだ。初めての経験だったが、見通しをもちながら作成することができた。

当日は互いの動画を見た後、質問やクイズを出し合った。「来年は絶対会って交流したい。」という声が、交流後にたくさん上がった。

部活動クイズに チャレンジ

中学部３年生（日野第三中学校）

① 活動の内容

オンライン交流…手話ソング、ゲーム（絵しりとり、ジェスチャーゲーム）

② 生徒の様子

事前に生徒同士のオンラインでの代表者会議を実施したことにより、交流に向けての意識が高まった。当日行ったジェスチャーゲーム等は、障害の程度にかかわらず、どの生徒も分かりやすく楽しめるものであったため、大いに盛り上がったグループもあった。

オンライン交流での司会を経験した生徒たちは、大きな自信を得ることができた。

取組・活動を振り返って（小学部・中学部）

感染症対策のため従来の方法での直接交流ができない中、今までのつながりが途切れないよう、教員だけでなく、児童・生徒たちも様々な交流方法を模索した。令和３年度はオンライン交流の活用を広げるとともに、各学年とも、以下の交流方法と作品・手紙交換などの間接交流も併せ、「今、できる交流」を工夫して実施した。

思うように直接交流ができなかったからこそ、どの学年の児童・生徒からも「今度はぜひ、会いたいね。」という声が聞かれ、交流への思いが深まった様子が見受けられた。

直接交流

令和３年度後半は、校庭で距離をとって対面する、本校玄関のガラス越しに対面する等の機会がもてた学年もあった。短時間だったが、互いの存在を直接感じる機会があったことは、実感を伴って「たくさんのともだち」を意識することができる場となった。

交流終了時には、両校の児童がいつまでも手を振り合う姿が印象的であった。

ビデオ動画の交換・視聴

本校の児童・生徒にとっては、録画した動画や画像を「繰り返し見ることができる」ことは大きな利点であった。モニターや大きなスクリーンに映し出された交流校のダンスや歌などを、興味深く見る児童・生徒の様子も、各学年で多く見受けられた。交流校が工夫して作成した動画は、画面越しでも、集団の迫力や雰囲気が伝わる内容であった。

自分たちが動画を作成する際は、「どのような内容が相手に分かりやすいか？」「クイズの正解発表のタイミングは、何秒後がよいか？」等、画面の向こう側にいる相手を意識して作成する姿も見られた。「動画は見るもの」だけではなく、部分的ではあるが「自分たちにも作ることができるもの」と、学ぶ機会にもなった。

オンライン交流

令和２年度は、「オンライン交流」ということを理解し、不安定な通信状況もある中で、落ち着いて交流に参加するのは小学部段階では難しいのではないかとの予想もあったが、令和３年度は小学部３年生から中学部３年までオンライン交流を行うことができた。「オンラインでのやり取り」という状況の理解が深まってきたことに加え、通信環境が整ってきたことも大きな要因であると思われる。

初めは緊張感で一杯だったが、徐々にお互いの発表に拍手を送ったり、画面の向こうの友達とともに笑い合ったりする様子もあった。企画を考えたり進行したりした児童・生徒にとっては、「オンライン交流ができた」という自信にもつながり、充実感を味わうこともできた。

（２）
各校における地域の学校・施設等との交流及び共同学習

連携する際に共通理解しておくこと

実施年度の前年度	○実施する学校等で交流及び共同学習を教育課程上位置付け、活動のねらいを明確にする。 ○交流を行う上での配慮事項等について実施する学校等で確認する。（オンライン環境、感染症対策等を含む）
実施年度当初	○交流担当者間で、顔合わせ及び年間指導計画に基づく実施計画について確認する。 ○直接交流ができない場合に備え、オンラインでの交流方法を確認する。
交流前	○ねらいに基づいた実施案を作成し、実施する学校の教員、児童・生徒との間で共通理解を図るようにする。特に、活動内容や役割分担等についての事前学習を行い、児童・生徒が活動への見通しをもてるようにする。 ○施設等と交流する場合は、特に発達段階に応じた社会的なマナー等の指導も行う。 ○できる限り映像での記録を残せるよう、当日の写真撮影が可能か確認する。 ※交流担当者間で交流時の写真の活用方法、範囲について確認し、児童・生徒・施設等の利用者の肖像権への配慮を十分に行う。
交流当日	○児童・生徒が主体的に活動する時間を十分確保し、一人一人の学びが円滑に進むよう、教員は安全確保をしながらサポート役に回る。
活動後	○交流の感想を手紙やビデオレター等で交流するなど、交流で得た気付きや学びを相手に伝える機会を設ける。 ○ねらいに沿った振り返りを行い、その後の障害理解につながる丁寧な指導を継続する。 ○担当者間で活動のねらい・内容等に対する評価をし、改善につなげる。 ○次年度の交流担当者が円滑に活動の進行を行うことができるよう、交流担当者間で、引継ぎ資料を作成する。 ○交流担当者間で次年度の交流日を決定する。

実践事例（３月実施）　　**夢が丘小学校　第１学年**
たかはた台保育園
日野わかば保育園

取組・活動名

「あたらしい１ねんせいをしょうたいしよう」（生活科）

実際の取組

①　活動のねらい

・同じ地域にある保育園と交流することで、来年度入学する１年生と関わることのよさに気付くことができる。
・夢が丘小学校のことを教え、「あたらしい１ねんせい」が入学を楽しみにできるようにする。

②　本取組・活動の内容

・来年度入学する年長の園児に喜んでもらうために、どんなことを伝えたらよいか話し合い、学校生活の様子や勉強のことを紹介することに決めた。

【学校紹介クイズ】
入学後、年下の子供との交流が初めてだったので、少し緊張した様子だったが、クイズに積極的に参加してくれる保育園の子を見て、うれしそうにしていた。「学校で会ったときには優しく教えてあげたい。」などの感想が上がった。

【合奏披露】
友達の音と合わせることを意識しながら真剣な表情で、演奏していた。上手く演奏することができ、拍手を受けると、ほっとした様子や照れた表情を見せていた。

③　教科等との関連

・生活科「がっこうだいすき」「あそびにいこうよ」「もうすぐ２ねんせい」
・国語科「てがみでしらせよう」「ききたいな、ともだちのはなし」
・音楽科「みんなであわせてたのしもう」
・道徳科「もうすぐ２ねんせい」

取組・活動を振り返って

・児童は、１年前に園児として当時の小学校第１学年と交流したことを思い出し、「今回は自分が紹介する番だ。」と、意欲的に活動を始めることができた。
・来年度入学する年長の園児が交流の相手であることで、第２学年になることへの意識が高まったり、園児と関わることの楽しさに気付いたりすることができた。

実践事例（１０月・１１月実施）

七生緑小学校　第２学年
市立百草図書館
もぐさだい児童館

取組・活動名

「ぼくたち・わたしたちのまちたんけん」（生活科）

実際の取組

① 活動のねらい

・図書館や児童館を訪問することで、住んでいる町にある施設について、さらに詳しく知ろうとしている
・訪れた施設について、自分の生活と結びつけながら、地域の人に質問したり話したりして、自分たちの住む町への理解と愛着を深めることができる。

② 本取組・活動の内容

・訪問する施設について事前に質問を考え、当該施設を訪れた。
・施設見学や質問を行い、分かったことや心に残ったことをポスターにまとめて、掲示した。

【図書館と児童館での交流】
図書館と児童館の職員さんに質問したいことをクラスで出し合い、学校でまとめた。実際に図書館と児童館の職員に質問をして答えてもらったり、施設を案内してもらったりして、感想を述べた。新しく知ったことが多くあり、興味をもって学習できた。

【見学後のポスターによる交流】
施設見学をして分かったことや感じたことをワークシートにまとめ、みんなに伝えることを決めた。
その後、グループに分かれ、伝えたいことを掲示するために、ポスターにまとめた。学習したことを多くの人に伝えようと、楽しみながら工夫し、作成していた。

③ 教科等との関連

・国語科「見たこと、かんじたこと」
・生活科「みんなでつかう　まちのしせつ」「もっとなかよし　まちたんけん」
・道徳科「きいろいベンチ」

取組・活動を振り返って

・見学したり話を聞いたりする機会を通して、児童たちは自分たちの住む町にある施設について、体験的に学習し、詳しく知ることができた。
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、例年通りに訪問できない施設もあったが、交流方法を工夫することで、自分たちの住む町への理解と愛着を深めることができた。

実践事例（７月実施）　　夢が丘小学校　第３学年
倉沢里山を愛する会

取組・活動名

「わたしたちの七生」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動のねらい

・自分たちの住む地域にある自然や歴史などに詳しい方々からお話を伺うことにより、地域に親しみや愛着をもち、地域のもつ魅力や素晴らしさを感じている。

・自分たちの住む地域の自然や歴史などを知り、学習したことを発信することができる。

② 本取組・活動の内容

・日野市郷土資料館や倉沢里山を愛する会など地域の自然や歴史について詳しく知る方々からお話を伺った。

・地域について聞いたことや調べたことをまとめて発表した。

【郷土資料館の方による出張授業】
郷土資料館の方に七生地域で見られる生き物や自然、歴史などについて教えていただいた。「知らなかったな。」「もっと知りたいな。」などの感想をつぶやきながら、真剣に話を聞いていた。

【地域について調べたことの発表】
地域について調べたことを発表し合い、七生地域の良いところをたくさん見付けることができた。「七生はすてきなところだな。」という気持ちを高めていた。

③ 教科等との関連

・総合的な学習の時間「わたしたちの七生」
・社会科　　「わたしたちの日野市の様子」
・道徳科　　「ふるさといいとこさがし」

取組・活動を振り返って

・地域のもつ魅力や素晴らしさを知ることにより、自分たちの住む地域への親しみや愛着を高めることができた。

・地域の魅力や素晴らしさを、様々な人たちにも伝えたいという意識が高まった。

実践事例（６・７月実施）

七生緑小学校　第４学年
夢が丘小学校　第４学年

取組・活動名

「集まれ　七生の仲間たち！！」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動の背景・ねらい

・第３学年の国語科「学校じまんをしよう」の単元で、オンラインで学び合ったことを発展させ交流した。
・地域で会ったときに、互いに挨拶や会話ができるような親しい関係をつくるきっかけにすることができる。

② 本取組・活動の内容

・事前学習では、相手の立場に立ちながら、みんなにとって分かりやすい遊びを考えた。
・交流当日は、互いの良いところを紹介し合う学級紹介や、事前学習で考案した遊びをオンラインで行った。

【事前学習とオンラインでの交流】

事前学習では、交流会の企画を行った。実行委員を募り、休み時間等を活用して、定期的に進捗状況を確認した。交流会のプログラムの決定や、始めの会や終わりの会の割り当てをした。

グループごとにクイズを考え、実行委員を中心に「絵しりとり」の描き方を確認した。事前にオンライン交流で、課題となりそうなことを洗い出し、本番に向けて準備を行った。

当日は、オンライン交流だったため、相手に伝えたいことを上手く伝えられない場面も見られたが、クイズや、絵しりとりでは、双方ともに楽しむ姿が見られた。

③ 教科等との関連

・国語科　「あなたなら、どう言う」
・総合的な学習の時間「ふれあおう　わかりあおう」
・道徳科　「合言葉は『話せばわかる！』」

取組・活動を振り返って

・オンライン交流でできることを考えることは、児童にとって、他者を思いやるきっかけとなり、挨拶や会話ができる関係づくりにつながったと言える。
・オンライン交流を活用すれば、より多くの学校の児童と交流できることに気付き、交流の範囲を広げたいという気持ちも生まれた。

実践事例（５月～２月実施）　夢が丘小学校　第５学年
介護老人福祉施設　ラペ日野

取組・活動名

「地域に住む人のために、できることを考えよう」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動のねらい

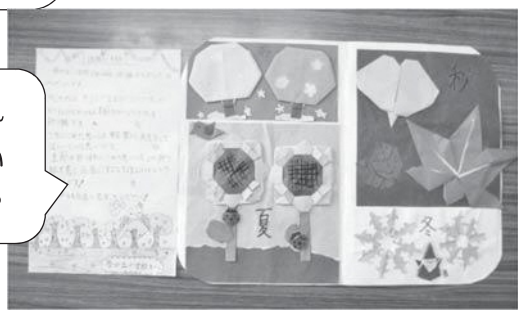
・地域にある介護老人福祉施設との交流をきっかけとして、地域への関心を高めている。
・地域のためにできることはないかを考え、自分も地域社会の一員であるという意識を高めている。

② 本取組・活動の内容

・介護老人福祉施設「ラペ日野」の施設長さんをゲストティーチャーとして招き、施設を利用する方の様子やこれまでの交流の様子を聞いた。
・地域のためにどのようなことができるのか話し合い、コロナ禍でも実現可能な活動内容を決定し、作成した。
・取組後に、自分たちの活動を次の学年にもつないでいこうと考え、活動に対する思いや活動内容、次年度の第５学年となる第４学年へのメッセージなどを模造紙にまとめた。

「ラペ日野」のみなさんに、夢が丘小のことをビデオで伝えたらどうかな？

【施設長の出前授業】
「ラペ日野」の施設長にお越しいただき、「ラペ日野」で生活している方の様子やこれまでの夢が丘小との交流についての話を聞いた。その後、どのようなことをしたら施設の方に喜んでもらえるかを考えた。



季節ごとにきれいな風景を描いたらどうかな？

【施設へ訪問】
施設の方へのプレゼントを作成し、施設に届けた。訪問時は、施設の利用者に笑顔で手を振ったり、働く方に、自分たちの思いを話したりすることができ、うれしそうな表情を浮かべていた。

③ 教科等との関連

・総合的な学習の時間「地域に住む人の願いを知って、できることを考えよう」
・道徳科　　「ノンステップバスでのできごと」

取組・活動を振り返って

・施設長さんの話を聞くことで、施設の利用者の願いを知ることができ、それを踏まえて自分たちにできることは何かを考えることができた。
・自分たちの力で実行できることや相手に喜んでもらえそうなことを友達と一緒に考え、常に相手意識をもって活動することができた。

実践事例（３月実施）　　**七生緑小学校　　第６学年**
あしながレインボーハウス

取組・活動名

「世界の人々とふれあおう　わかりあおう」（総合的な学習の時間）

実際の取組

① 活動のねらい

・同じ地域に住む外国の方と知り合い、交流しようとしている。
・外国の方に日本のこと、七生緑小学校のことを知ってもらい、関係を深めることができる。

② 本取組・活動の内容

・地域にある「あしながレインボーハウス」で生活する外国の方と交流を行った。
・英語で自己紹介をしたり、けん玉や折り紙、日本の楽器などで実演したりし、自分たちのことを知ってもらった。

【グループでのオンライン交流】
児童はガーナ、モロッコ、コンゴ共和国、ベルギーの４か国のグループに分かれ、相手の方と交流した。
英語で挨拶や自己紹介を行った後、「あしながレインボーハウス」の方々から、それぞれの国について紹介いただいた。紹介を基に、児童は質問したり感想を伝えたりした。
交流の最後には、けん玉や折り紙、お琴や三味線の合奏など、自分の得意なことを披露した。相手の方の反応から、日本の文化を伝えられたと、とても喜んでいた。

③ 各教科との関連

・社会科　　「日本とつながりの深い国々」
・外国語科　　「Let’s be friends.」
・総合的な学習の時間「ふれあおう　わかりあおう」
・道徳科　　「みんないっしょだよ　～黒柳徹子」

取組・活動を振り返って

・交流会に向けて意欲的に取り組み、日頃の学習で身に付けた英語表現を生かすことができた。また、世界の国をより身近に感じるよい機会となった。
・オンライン交流ではあったが、少人数で行ったことで、より深く関わることができた。

実践事例（７月～３月実施）　　**教育センター日野市わかば教室**
夢が丘小学校　　第６学年

取組・活動名

「クイズ交換で交流しよう」

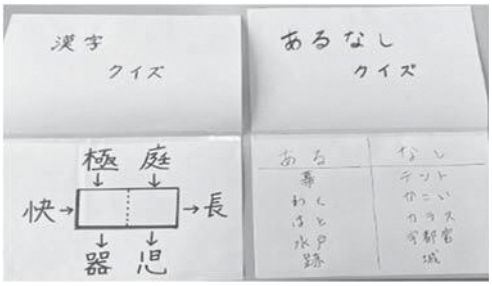
実際の取組

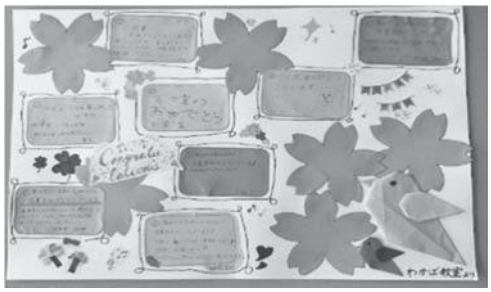
① 活動の背景

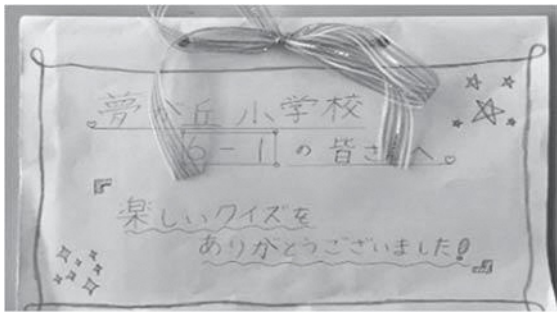
・夢が丘小学校第６学年のクイズ係から、わかば教室にクイズが贈られてきたことがきっかけとなり、わかば教室職員は、市立学校とわかば教室の児童・生徒とが関わり合い、楽しい時間を共有する方法について考えた。わかば教室に通う児童・生徒の実態から、市立学校の児童・生徒との直接交流は難しいため、クイズ等を交換する間接交流が始まった。

② 本取組・活動の内容　（クイズ等の受け渡しは教職員が行った）

・わかば教室の児童・生徒は、夢が丘小学校からのクイズのお礼として、新たにクイズを作り、お礼の手紙と一緒に夢が丘小学校へ贈った。
・クイズとお礼の手紙を受け取った夢が丘小学校の児童は、わかば教室児童・生徒から贈られた「穴埋めクイズ」を参考にし「夢小バージョン穴埋めクイズ」を作成した。お礼の手紙と模造紙一杯に描いたイラストと一緒に、わかば教室へ贈った。
・わかば教室の児童・生徒は、夢が丘小学校への更なるお礼として、３月にお礼の手紙と卒業を祝うメッセージやイラストを、夢が丘小学校に贈った。







【クイズでつながる間接交流】
わかば教室の児童・生徒からは「クイズに挑戦するのがとても楽しかった。」「とても面白い問題を考えてくれてありがとう。」「自分では作れないようなクイズを作ってすごい。」という感想が上がるなど、クイズという共通の楽しみを通して、他者と関わる喜びを味わうことができた。

③ 教科等との関連

・特別活動「係の仕事を工夫しよう」
・道徳科　「みんないっしょだよ」

取組・活動を振り返って

・児童・生徒がお礼に手紙を書いたり、イラストを描いたり、クイズの新しい問題を作成して送り合ったりするなど、間接的ではあるが交流し、つながりをもつことができた。そして楽しい時間を共有する喜びを感じることができた。
・他者との関わり方には様々な形があることを知ることができた。

（３）
その他の学校における
インクルージョン連携事業

連携する際に共通理解しておくこと

オンライン あいさつ 運動	○一人１台の学習者用端末等を大型テレビモニターなどと接続するなど、児童・生徒が交流先の学校の様子を大画面で見られる環境があるか確認する。 ○登校時間にかかわらず、休み時間や給食の時間、下校時間等に各校をオンラインでつなぐことも考えられる。 ※いずれの場合も、学校により時程が異なることに留意する。

学級紹介	○学級を紹介する動画を児童・生徒の実態に応じて作成する。小学校高学年以上は動画の編集等を児童が行うことも考えられる。 ○各校で、作成する動画の再生時間をそろえるなど、共通理解を図る。 ○友達の顔や姿だけでなく、作成した作品等を撮影する場合も必ず当事者の許可を取るようにするなど、情報モラルに関する事項も計画的に指導する。 ○作成した動画の容量が大きくなると、データでのやり取りが難しくなることもあるため、サーバ等を介して動画を共有できるか確認する。 ○個人情報に配慮し、年度が終わったら動画を消去する。

アート交流	○個人情報に配慮し、出品者及び保護者に承諾を取る。また、掲示の際は個人名を表記しないようにする。 ○展示スペースを考慮し、代表児童・生徒の作品を展示する。 ○展示作品を定期的に参加校の間でローテーションしながら行う。 ○作品を鑑賞し合った際の感想を、手紙等で交流することも考えられる。

とびだせ アート 交流	○展示できる場所（公共施設）を確保し、展示場所・日時を確定させる。 ○交流担当者間で搬入・展示・搬出方法を決める。 ○地域の方に、活動のねらいが伝わるよう、説明書き等を掲示する。 ※本事業では、鑑賞する方に交流イメージをもってもらえるよう、展示場所を学校ごとに区切らず、決まったスペースの中で学年・学校が入り混じった状態にし、展示した。

【共通事項として】

○活動のねらいを明らかにし、ねらいに沿った振り返り及び改善を行う。

実践事例（毎週木曜日）

日野第三中学校
夢が丘小学校
七生緑小学校
教育センター日野市わかば教室

取組・活動名

「オンラインあいさつ運動」

実際の取組

① 活動のねらい

・交流及び共同学習の際に、相手校の児童・生徒と活発に交流しようとする意欲を高めることができる。
・地域で会ったときに、挨拶や会話をしようとする意欲を高めることができる。

② 本取組・活動の内容

・昇降口に大型テレビ、タブレット端末を設置し、オンラインによる挨拶運動を行った。
・児童は、画面越しに他校の児童・生徒と、身振りや手振りで挨拶を行った。

だれか知ってる子、いないかな？
見たことある子、いないかな？

自由に手を振ったり、会釈をしたり、サッと通り過ぎたり、児童によって反応は様々だった。「楽しかった。」「〇〇さんの兄弟が映っていた。」「じゃんけんをしたら、やってくれた。」「あの子は、習い事で一緒の子だ。」などの言葉が多く聞こえた。

これ、向こうの学校のみんなと、画面でつながっているの？

③ 教科等との関連

・国語科、道徳科、特別活動　等

取組・活動を振り返って

・モニター付近は混雑するという判断や、身振り手振りでのやり取りを重視したいという考えから、音声をオフにして実施した。はじめは、画面をのぞきこむだけだった児童も、日を追うごとに手を振る、じゃんけんをするなど行動に変化が見られ、楽しんでいる様子をうかがうことができた。
・身振り手振りだけでの交流ではあるが、児童・生徒だけでなく、教職員も互いに意思が伝わっているという楽しさを感じることができ、交流の土台作りができた。

実践事例（１学期）

七生特別支援学校
日野第三中学校
夢が丘小学校
七生緑小学校
教育センター日野市わかば教室

取組・活動名

「学級紹介」

実際の取組

① 活動のねらい

・同じ地域にある学校の児童・生徒たちがどんな学級で生活しているのかを知り、他校等への興味・関心を高めることができる。
・動画を視聴する相手のことを考えながら、在籍する学級の様子を他校等に伝えるために、より伝わりやすい方法を考えることができる。

② 本取組・活動の内容

・一人１台の学習者用端末を使用し、学級紹介動画を作成した。
・共有サーバを使用し、学校間でファイルを共有した。
・学級ごとに他の学級等の動画を閲覧した。

こんにちは！夢が丘小学校の５年１組です。私たちのクラスは、〇〇を大切にしています。なぜなら、私たちのクラスは…

どの学年、学級ともに、興味深く動画を鑑賞していた。他校にきょうだいが在籍している児童・生徒の学級では、動画の中にきょうだいを見付けると、盛り上がる様子を見せた。

中学校では、動画の中で視聴者に対して手を振る児童たちが映し出されると、それに応えて画面に手を振る生徒もいた。「また観たい。」など、動画での交流を楽しむ声が多く聞かれた。

③ 教科等との関連

・国語科、総合的な学習の時間、道徳科、特別活動　等

取組・活動を振り返って

・視聴する相手の校種や年齢などを考えながら試行錯誤し、動画作成をする姿が見られた。
・小学校では、同学年の学級の動画に対してはより高い関心をもって視聴していた。中学校の動画を視聴した際には、教室内の様子や制服を着ている姿など、特に自分たちとの違いに気付く場面で、驚いている様子が見られた。
・市立学校の児童・生徒にとって、これまで関わりの少なかったわかば学級の特徴や様子を知ることができる良い機会となった。

実践事例（通年）

七生特別支援学校
日野第三中学校
夢が丘小学校
七生緑小学校

取組・活動名

「アート交流」

実際の取組

① 活動のねらい

・普段の学校生活の中で、交流する学校等の児童・生徒の作品を目にすることにより、交流する学校等の児童・生徒とのつながりを感じている。
・自己の作品制作に関する視野を広げることができる。

② 本取組・活動の内容

・授業で制作した作品を各校数点ずつ選び、それぞれの校内で展示した。
・年に２～３回、展示する作品を交換し合った。

アート交流は、本事業を開始する前の平成３０年度から、４校が連携して取り組んでいる活動である。
展示スペースの前では、「どうやって作ったのだろう。」という、作り方に関心を示す児童や、お気に入りの作品について友達と話をする児童・生徒の姿が見られた。

③ 教科等との関連

・図画工作科、美術科　等

取組・活動を振り返って

・各校がそれぞれ展示スペースを設け、他校の作品を常時掲示するようにしたことで、児童・生徒や職員だけでなく来校者も見ることができ、本取組について校内関係者に広く知ってもらうきっかけとなった。
・市立小学校の児童が七生特別支援学校見学をした際、アート交流として廊下に掲示されていた自校の作品を見付けたことがあった。作品が展示されていることを目の当たりにした児童は、七生特別支援学校の存在をより身近に感じることができた様子だった。アート交流を自校以外の場所で鑑賞することも、交流を深める良い機会になることが分かった。

実践事例（７・８月）

七生特別支援学校
日野第三中学校
夢が丘小学校
七生緑小学校
教育センター日野市わかば教室

取組・活動名

「とびだせアート交流」

実際の取組

① 活動のねらい・背景

・本事業が目指す「共生社会・共生地域をつくる児童・生徒の育成」には、地域への発信等も大切であるという考えから、継続して行ってきた取組である「アート交流」を校外で行うことにした。
・本事業の趣旨を地域の方に知ってもらえるように、展示方法にも工夫を凝らすようにした。

② 本取組・活動の内容

・授業や部活動などで児童・生徒が制作した作品を駅構内の展示スペースに掲示した。
・４校１教室で学ぶ児童・生徒の作品を一同に展示し、地域に住む方々に見てもらった。

多摩都市モノレール株式会社に協力していただき、４校１教室の近くにある駅構内に展示スペースを設けた。
本事業が目指す共生社会・共生地域を表現できるよう、作品を、学校や学年が入り混じった状態で展示することにした。
地域の方からは、「様々な学校の子供たちの作品を見ることができて、いい活動ですね。」という声が寄せられた。

③ 教科等との関連

・図画工作科、美術科　等

取組・活動を振り返って

・駅を日頃から利用している地域の方々に本事業について知ってもらうとともに、作品を楽しんでもらうことができた。
・駅を使用している保護者や児童・生徒も興味をもってみたり、作品を鑑賞したりするなどの機会を設けることもできた。

日野市としての取組

日野市教育委員会
日野市立小・中学校

研修会等の実施

全体研修会

① ねらい

学校におけるインクルージョンに関する理解を深めるとともに、交流及び共同学習の在り方などについて学び、教員としての資質・能力を高めることができる。

② 対象

４校１教室の事業関係者及び、日野市立学校教員等

③ 内容等

【令和３年度】　・講演　「学校におけるインクルージョン教育」
講師　東北福祉大学教授　大西　孝志　先生
・講演　「子供と接するときに本当に大切なこと」
講師　筑波大学付属小学校元副校長　田中　博史　先生

【令和４年度】　・講演　「インクルーシブ教育システムと特別支援教育」
講師　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター
上席総括研究員（兼）センター長　笹森　洋樹　先生

職層別研修会

① ねらい

各教員等が学校におけるインクルージョンを含めた特別支援教育に関する課題を認識し、それぞれの職層に応じた解決策を考え、実践することができる。

② 研修名

・特別支援教育管理職研修会
・特別支援教育コーディネーター研修会
・特別支援教育研修会（基礎編／初任者対象）

③ 内容等

・交流及び共同学習について、合理的配慮について　等

各校の課題に応じた研修会

① ねらい

各校の課題により設定。

② 対象

各校教員等、児童・生徒、保護者

③ 内容等

・教員向けの授業に関する研修
・児童・生徒向けの障害者理解等に関する講演
・保護者への理解促進・啓発を目的とした共生社会及び学校におけるインク―ジョンに関する講演等

特別支援教育管理職研修会の様子。令和４年度は、年間２回実施した。

４校１教室以外の学校における交流及び共同学習

取組例

個に応じた校内における交流及び共同学習

市立学校では、市内共通の実践「ひのスタンダード」を軸とした通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりをすることで、特別支援学級の児童・生徒たちも安心して各教科等の交流及び共同学習に参加できるようになっている。

授業における友達との対話も、交流及び共同学習に参加する児童の安心感につながっている。

取組例

学級単位で行う校内における交流及び共同学習

特別支援学級が設置されている市立学校では、学級単位で交流及び共同学習を実施している。

ある学校では、特別支援学級の児童が、授業で学んだ和太鼓について、通常の学級の児童たちに教えた。

他の機会には、地域に伝わる和楽器についてゲストティーチャーを招聘し、総合的な学習の時間に交流及び共同学習を実施した。特別支援学級の児童と通常の学級の児童とが、共に演奏をしながら、地域に伝わる文化や伝統のよさを学ぶことができた。

取組例

市立中学校と東京都立特別支援学校における交流及び共同学習

日野第四中学校では、八王子東特別支援学校との交流及び共同学習を行っている。令和４年度、コロナ禍の影響もあり、第１学年生徒はオンラインでのボッチャ体験交流を行った。

オンライン交流でも、生徒同士の関わりが増えるようにするための工夫として、日野第四中学校の生徒が、八王子東特別支援学校の生徒に、投球の際に使用するランプ（発射台）の台の向きを助言するという方法を取り入れた。

生徒は、「もうちょっと右です。」「ほんの少しだけ左です。」など、具体的に助言をしていた。助言によって高得点を取った際には、大きな歓声が上がった。

3

児童・生徒の実態

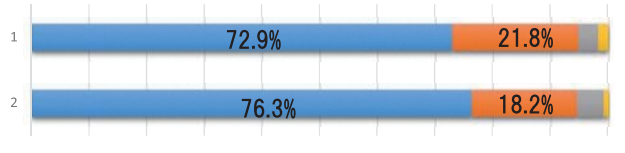
日野市インクルージョン研究アンケート集計【令和3年度(R3)、4年度(R4)】　対象：市立3校1教室の児童・生徒

小学生1～３年

●「人と話すこと」について

1　お友だちとおはなしをすることはすきですか？

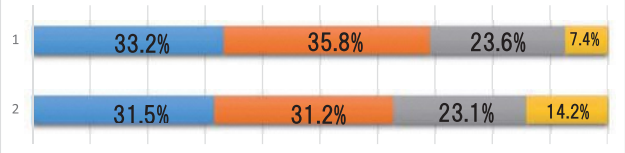
	すき	すこしすき	あまりすきではない	きらい
R3	72.9%	21.8%	3.5%	1.7%
R4	76.3%	18.2%	4.6%	0.9%



●「人に自分の考えを話すこと」について

2　みんなの前でおはなしをすることは好きですか？

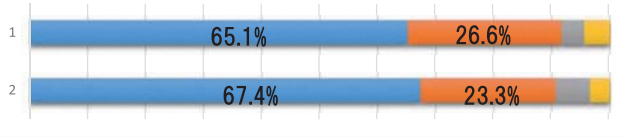
	すき	すこしすき	あまりすきではない	きらい
R3	33.2%	35.8%	23.6%	7.4%
R4	31.5%	31.2%	23.1%	14.2%



●「人の話を聞くこと」について

3　お友だちのおはなしをきくことは楽しいですか？

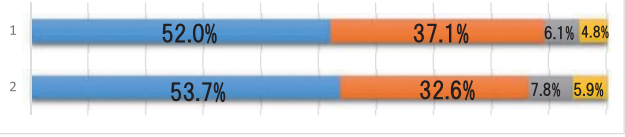
	楽しい	すこし楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
R3	65.1%	26.6%	3.9%	4.4%
R4	67.4%	23.3%	5.9%	3.4%



●「話し合うこと」について

4　クラスのことをみんなとはなしあうことは好きですか？

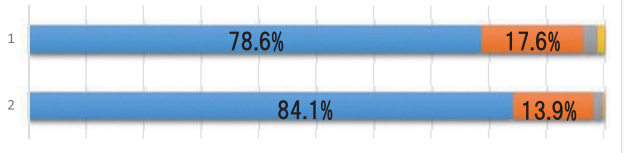
	とてもすき	すこしすき	すこしきらい	きらい
R3	52.0%	37.1%	6.1%	4.8%
R4	53.7%	32.6%	7.8%	5.9%



小学生4～6年

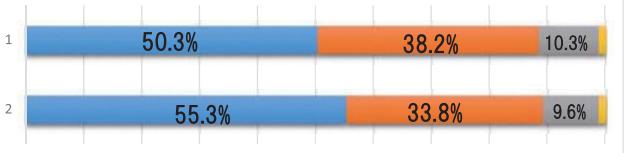
1　人と話すことは大切なことだと思いますか？

	とても大切だと思う	少し思う	あまり思わない	思わない
R3	78.6%	17.6%	2.5%	1.3%
R4	84.1%	13.9%	1.7%	0.3%



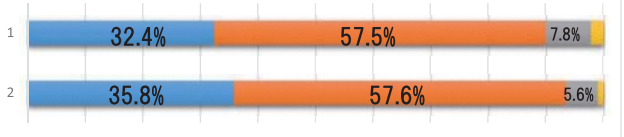
2　自分で考えたことを人に話して伝えることはできますか？

	できる	少しできる	あまりできない	できない
R3	50.3%	38.2%	10.3%	1.3%
R4	55.3%	33.8%	9.6%	1.3%



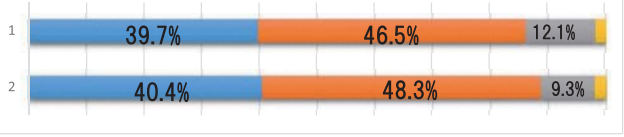
3　人の考えを聞くことは好きですか？

	とても好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
R3	32.4%	57.5%	7.8%	2.3%
R4	35.8%	57.6%	5.6%	1.0%



4　友達と意見を出し合って、新しい考えを見つける活動は好きですか？

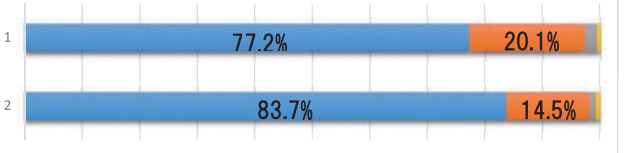
	とても好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
R3	39.7%	46.5%	12.1%	1.8%
R4	40.4%	48.3%	9.3%	2.0%



中学生1～３年

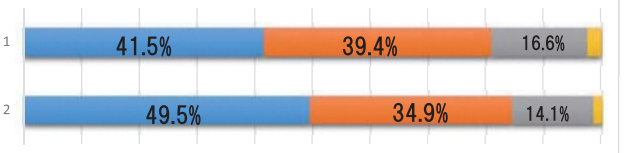
1　人と話すことは大切なことだと思いますか？

	とても大切だと思う	少し思う	あまり思わない	思わない
R3	77.2%	20.1%	2.1%	0.7%
R4	83.7%	14.5%	1.1%	0.7%



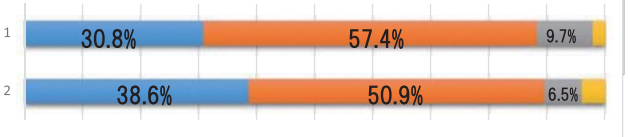
2　自分で考えたことを人に話して伝えることはできますか？

	できる	少しできる	あまりできない	できない
R3	41.5%	39.4%	16.6%	2.4%
R4	49.5%	34.9%	14.1%	1.5%



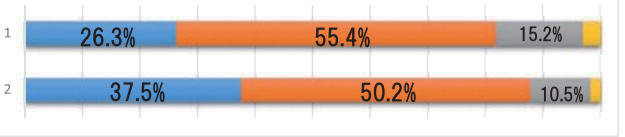
3　人の考えを聞くことは好きですか？

	とても好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
R3	30.8%	57.4%	9.7%	2.1%
R4	38.6%	50.9%	6.5%	4.0%



4　友達と考えを共有して、新しい考えを見つける活動は好きですか？

	とても好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
R3	26.3%	55.4%	15.2%	3.1%
R4	37.5%	50.2%	10.5%	1.8%

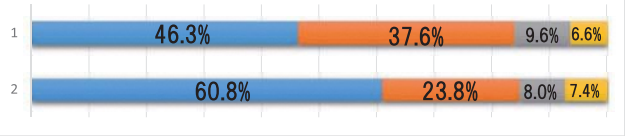


小学生1～３年

●「友達の考えを自分の考えの参考にしているか」について

5 お友だちのおはなしでよいことは自分もまねをしようとおもいますか？

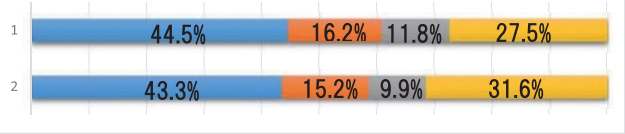
	おもう	すこしおもう	あまりおもわない	おもわない
R3	46.3%	37.6%	9.6%	6.6%
R4	60.8%	23.8%	8.0%	7.4%



●「人との交流」について

6 中学生やほかの学校のお友達といっしょに遊んだり勉強したりしたことがありますか？

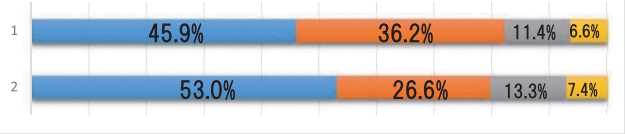
	ある	すこしある	あまりない	ない
R3	44.5%	16.2%	11.8%	27.5%
R4	43.3%	15.2%	9.9%	31.6%



●「オンラインでの交流」について

7 いろいろな人とオンラインでこうりゅうすることについて

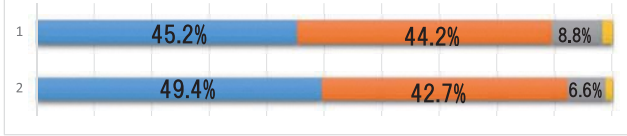
	たくさんやってみたい	やってみたい	あまりやりたくない	やりたくない
R3	45.9%	36.2%	11.4%	6.6%
R4	53.0%	26.6%	13.3%	7.1%



小学生4～6年

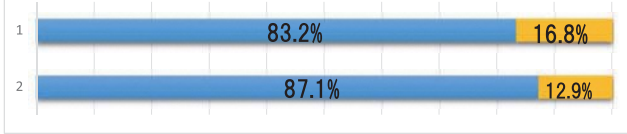
5 友達の考えを聞いて、自分の考えの参考にしていますか？

	している	ときどきしている	あまりしていない	していない
R3	45.2%	44.2%	8.8%	1.8%
R4	49.4%	42.7%	6.6%	1.3%



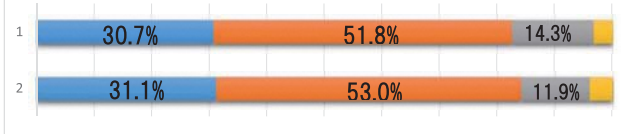
6 同じ地域の小中学生など他の学校の児童・生徒と行う交流活動（地域清掃・あいさつ運動・募金・オンライン交流など）に参加したことがありますか？

	したことがある	したことがない
R3	83.2%	16.8%
R4	87.1%	12.9%



7 いろいろな人とオンラインで交流することについてどのように思いますか？

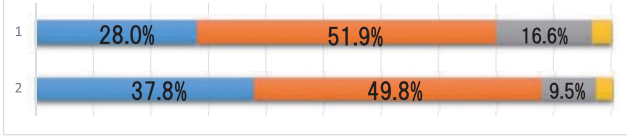
	たくさんやってみたい	やってみたい	あまりやりたくない	やりたくない
R3	30.7%	51.8%	14.3%	3.3%
R4	31.1%	53.0%	11.9%	4.0%



中学生1～３年

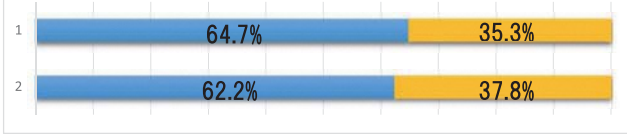
5 友達の考えを聞いて、自分の考えに生かすようにしていますか？

	している	ときどきしている	あまりしていない	していない
R3	28.0%	51.9%	16.6%	3.5%
R4	37.8%	49.8%	9.5%	2.9%



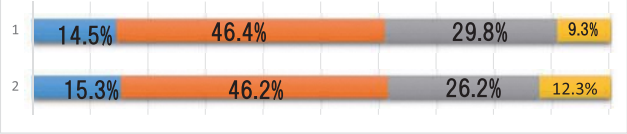
6 同じ地域の小中学生など他の学校の児童・生徒と行う交流活動（地域清掃・あいさつ運動・募金・オンライン交流など）に参加したことがありますか？

	したことがある	したことがない
R3	64.7%	35.3%
R4	62.2%	37.8%



7 いろいろな人とオンラインで交流することについてどのように思いますか？

	たくさんやってみたい	やってみたい	あまりやりたくない	やりたくない
R3	14.5%	46.4%	29.8%	9.3%
R4	15.3%	46.2%	26.2%	12.3%



小学生1～３年

●「あいさつ」について

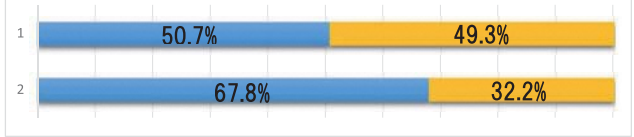
8 あなたは、すんでいる町でしっている人にあいさつをしますか？

	よくする	ときどきする	あまりしない	しない
R3	48.9%	38.0%	7.9%	5.2%
R4	56.5%	31.8%	6.8%	4.9%

●「地域の行事」について

9 すんでいる町のぎょうじ（おまつりやせいそうなど）はしっていますか？

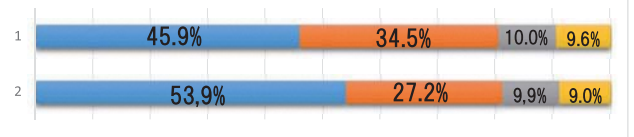
	している	しらない
R3	50.7%	49.3%
R4	67.8%	32.2%



●「地域で行われる行事への参加」について

10 その町のぎょうじにさんかしたいとおもいますか？

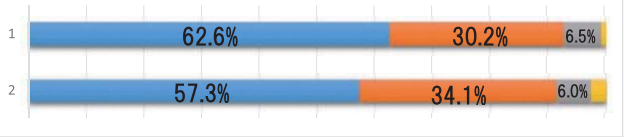
	おもう	すこしおもう	あまりおもわない	おもわない
R3	45.9%	34.5%	10.0%	9.6%
R4	53.9%	27.2%	9.9%	9.0%



小学生4～6年

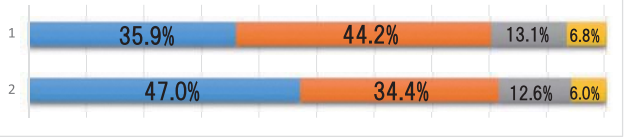
8 地域や町で出会う知り合いの人に挨拶をしていますか?

	している	ときどきする	あまりしない	しない
R3	62.6%	30.2%	6.5%	0.8%
R4	57.3%	34.1%	6.0%	2.6%



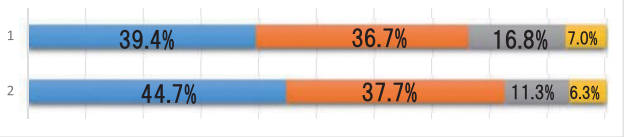
9 地域の行事や活動（お祭り・盆踊り・地域清掃など）には興味がありますか？

	ある	少しある	あまりない	ない
R3	35.9%	44.2%	13.1%	6.8%
R4	47.0%	34.4%	12.6%	6.0%



10 地域で行われる行事や活動（お祭り・盆踊り・地域清掃など）に参加したいと思いますか？

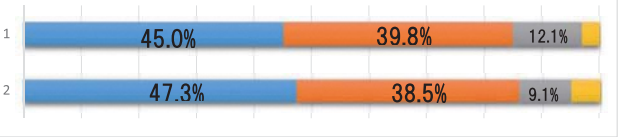
	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
R3	39.4%	36.7%	16.8%	7.0%
R4	44.7%	37.7%	11.3%	6.3%



中学生1～３年

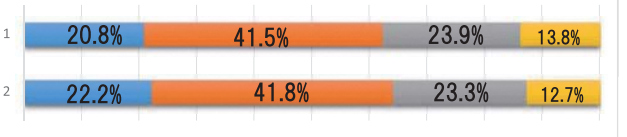
8 地域や町で出会う知っている人に挨拶をしていますか?

	している	ときどきする	あまりしない	しない
R3	45.0%	39.8%	12.1%	3.1%
R4	47.3%	38.5%	9.1%	5.1%



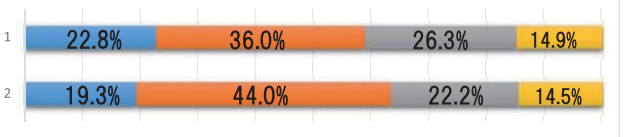
9 地域の行事には興味がありますか？

	ある	少しある	あまりない	ない
R3	20.8%	41.5%	23.9%	13.8%
R4	22.2%	41.8%	23.3%	12.7%



10 地域で行われる行事に参加したいと思いますか？

	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない
R3	22.8%	36.0%	26.3%	14.9%
R4	19.3%	44.0%	22.2%	14.5%



児童・生徒の実態

令和３年７月と令和４年７月の計２回、市立学校３校１教室の児童・生徒約９００名に同じ内容のアンケートを実施した。アンケートの設問はそれぞれの児童・生徒の年齢層に応じた内容にした。

【設問１～５　「他者と話すことに関する項目」から】

「１．人と話すこと」から、どの学年でも約９５％以上の児童・生徒が話すことは大切だと思っていることが分かる。しかし、「２．人に自分の考えを話すこと」から、半数以上の児童・生徒が自分の考えを人に話すことに何らかのとまどいをもっていることが分かる。

「３．人の話を聞くこと」、「４．話し合うこと」から、ほとんどの児童・生徒が話を聞くことが好きで話合いも嫌いではないことが分かる。しかし、「とても好き」と答える割合は年齢が上がるほど少なくなっている。

「５．友達の考えを自分の考えの参考にしているか」から、８０％以上の児童・生徒が「している」「ときどきしている」と答えているが、「している」と答えた割合は中学校の方が少ないことが分かる。しかし、令和３年度、中学校は「あまりしていない」「していない」と２０．１％の生徒が答えていたが、令和４年度は１２．４％にまで減少している。

【設問６・７　「直接交流、オンライン交流に関する項目」から】

令和４年度、小学校第４～６学年は８７．１％の児童が、中学校では６２．２％の生徒が、地域の児童・生徒との交流に「参加したことがある」と答えた。コロナ禍で行われるオンラインの交流についても概ね同じ割合の児童・生徒は参加について前向きな感想をもっていることが分かる。

【設問８～１０「地域との関わりに関する項目」から】

「８．あいさつ」では、地域で会った知っている人への挨拶について「している」または「ときどきしている」と答えた児童・生徒の割合は、小学校は約９０％、中学校は約８５％であった。

「９．地域の行事」では、小学校第４～６学年で約７０～８０％の児童が、中学校では約６０％の生徒が「関心がある」または「少し関心がある」と答え、「１０．地域で行われる行事への参加」では、小学校の約８０％の児童が、中学校は約６０％の生徒が「参加したいと思う」または「どちらかといえば思う」と答えている。コロナ禍による影響で約３年間にわたり様々な地域行事が中止となったことを踏まえると、地域の行事に対する関心が高いと言うことができる。

【まとめ】

アンケートへの無回答がわずかであったことや、アンケートの回答における肯定的な意見が多かったことから、児童・生徒が本事業に前向きに取り組んだ様子が感じ取れた。

設問によっては、年齢が上がるに連れ、前向きに捉えている児童・生徒数の割合が低くなるものもあった。しかし、令和３年度と令和４年度の比較では、ほとんどの設問で、前向きに捉える児童・生徒の割合が増加した。コロナ禍の影響で直接交流が思うようにできなかった状況でも、オンライン交流や間接交流などの工夫によって、児童・生徒に交流及び共同学習に対する前向きな気持ちを育むことができたと言える。

4
成果とこれから

成果とこれから

成　果

【つながること　つながりが深まること】

○今回の研究を通じて、物理的な距離を取らざるを得なくなったコロナ禍であっても、これまで続けてきた地域での学校間交流を止めることなく、形を変えながら進めることができた。「オンラインあいさつ運動」では、会釈から始まり、手を振ったり、互いのリアクションを楽しんだりするなど、児童・生徒の中で自然に挨拶を交わす時間になってきている。児童・生徒の感想からも同じ地域に住む友達という認識が高まってきたと言える。

○アンケートからオンラインで交流をしていきたいと感じている児童・生徒の割合が増加していることが分かった。児童・生徒が交流及び共同学習の形を問わずに、主体的に考え、自分事として取組を進めていきたいという思いをもつようになったことの表れであると考える。

○一人１台学習者用端末等の活用により、間接的ではあるが一緒に何かをするなどの関わりをもつことができた。離れた場所にいる相手のことを考え、「どうしたら伝わるかな。」「楽しんでもらうためには…。」と話し合う中で、他者意識の高まりを感じることができた。

○指導する教職員もそれぞれの学校、校種に対しての理解が深まり、関係を築くことができた。

【つながりが広がること】

○学校間交流をさらに地域に知ってもらう取組（とびだせアート交流）を公共施設である駅で実施したことで、地域に住む方々にも広く知らせることができた。

○小学校では、地域にある施設や保育園、地域のために活動されている団体との交流など発達段階に応じた内容で交流及び共同学習を進めることができた。

○一人１台の学習者用端末等を使用した交流方法を知ることで、直接交流だけでなく、様々な活動内容を考えることができた。

これから

【つながること　つながりが深まること】

○「オンラインあいさつ運動」「学級紹介」という取組から、新しい交流の形をつくることができた。引き続き、一つの行事や単発のイベントという形ではなく、日常的な、ごく当たり前の活動にすることを意識しながら、学校間での交流及び共同学習を推進する。

○交流及び共同学習を実施する際は、児童・生徒が中心となりながら、新たな形についても模索をしていく。そして、地域の児童・生徒同士が協力し、「地域を動かし、真に『共に生きるまち』を創造していく」力を身に付けられるようにする。

【つながりが広がること】

○本事業の成果を生かしながら、市内全域で、校内外における各教科等での交流及び共同学習の実践が促進されるよう、研究を行っていく。

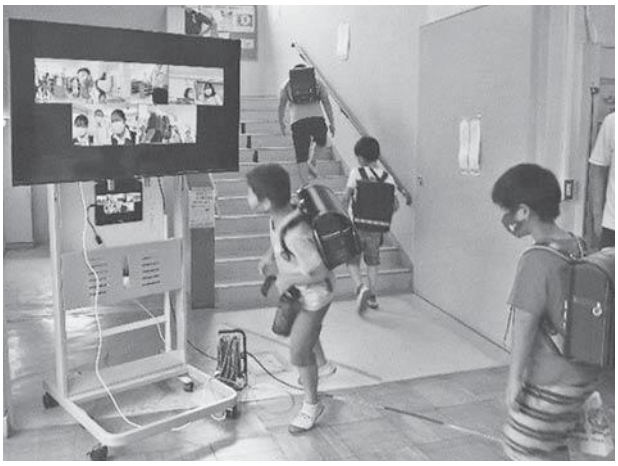
おわりに

本事業は、東京都教育委員会の「学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業」として、令和２年度から、４校１教室が連携し、実践研究を進めてまいりました。

子供たちが地域を動かす真のインクルーシブ社会「共に生きるまち」を実現することを目的とし、直接交流やオンライン交流、作品交流などの交流及び共同学習を通して、障害のあるなしにかかわらず、地域で会ったときに挨拶や会話が交わせる関係を構築し、すべての“いのち”がよろこびあふれる活動を自らの手と、仲間たちとともに創造する子供たちの育成を目指してきました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で直接交流が難しい中、児童・生徒に「この状況で、何ができるか」、「他校の児童・生徒とどんな交流ができるか」、「自分たちが住む地域や人々のために何ができるか」などの問いを投げかけてきました。児童・生徒は、自分たちで考え、計画し、実行することで、主体性や友達と関係を築く力を身に付けることができました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や大規模災害等、予測不能なことが起こる時代において、地域のために貢献しようとする強い思いを育むことができました。

本事業が終わっても、児童・生徒が身に付けた力や経験、友達や地域との関係性は、児童・生徒や地域の未来にとって必ず役に立ち、続いていくものであると信じます。これからも、４校１教室の連携を継続し、地域の方々のご協力を仰ぎながら、児童・生徒の主体性や地域社会に参画しようとする資質と能力を養ってまいります。

最後になりましたが、本事業に際して、ご指導ご助言を賜りました講師の皆様、日野市教育委員会の皆様をはじめとする本事業に携わってくださった多くの皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

東京都立七生特別支援学校　副校長　濱田　恵
日野市立日野第三中学校　副校長　竹村　きよみ
日野市立夢が丘小学校　副校長　大澤　陽介
日野市立七生緑小学校　副校長　大西　恵理子
日野市立教育センター
日野市わかば教室　職　員　森本　友明